

公益社団法人松戸青年会議所
2026 年度 理事長意見書

「覚悟」

～自分を信じて前に進もう、明るい松戸の未来のために～

公益社団法人松戸青年会議所
室長 長谷川 智之

はじめに

青年会議所は「明るい豊かな社会」の実現を掲げ、「修練・奉仕・友情」の三信条に基づき、地域に志を灯し続けてきました。松戸青年会議所は1968年、381番目のLOMとして誕生して以来、先輩諸兄姉の気概を受け継ぎ、半世紀以上にわたり松戸のまちづくりを牽引してきました。迎える2026年、日本は停滞する経済、急速な人口減、貧富の格差拡大など、多層的な難題が複雑に絡み合っています。常識が通用しない時代だからこそ、進むべき航路を自ら定める勇気と責任が不可欠です。「誰かの決断を待つのではなく、自ら旗を掲げ未知を切り拓く」この精神を体現する言葉こそ、本年度のスローガンである『覚悟』です。青年会議所の存在意義は、誰かが決断を先送りにする状況で「自分がまず動く」と声を上げる若きリーダーを輩出することにあります。戦後の瓦礫から立ち上がった世代がいたからこそ高度経済成長があり、リーマン・ショックや東日本大震災の苦難を乗り越えた人々の献身があったからこそ、今日の社会は希望を繋いできました。歴代理事長が掲げたスローガンもまた、常に時代と正面から向き合い、行動の道標となってきたのです。「義を見てせざるは勇無きなり」中国の孔子の言葉で「人として何が正しい行動かを理解していくながら実行しないのは、勇気がないからだ」という意味になります。私たちは自己の利益と社会の利益を一致させる道を探求し続けなければなりません。決めたからには、たゆまぬ学びと行動で結果をつくり、失敗すら次の糧に変える。その主体性と責任を併せ持った姿勢を『覚悟』と呼びたいと思います。覚悟をもって行動する個の連鎖が、やがて大きな社会のうねりとなり、地域課題を突破する推進力を生むと私は確信しています。青年一人が立ち上がることは小さな一歩かもしれません。しかし、一人ひとりが覚悟を共有したとき、その影響力は掛け算で広がり、行政や市民を巻き込みながら松戸の課題解決へ向けた実践の場を創造します。自分の人生を豊かにしたいと願うなら、まず地域を豊かにする行動を選び取る。その循環こそが、私たちのまちの未来を変える最短距離なのです。覚悟は挑戦者にのみ許される特権であり、挑戦は次の世代への最良の贈り物でもあります。行動の規模は違っても、覚悟を決めた一歩は等しく尊いのです。さあ、迷いを断ち切り、覚悟をもって新たな一歩を踏み出しましょう。

食を通じて、松戸に賑わいを創出する

令和5年度松戸市総合計画進行管理のための市民意識調査報告書によれば、市民の72.5%が本市を「住みやすい」と評価し、今後も「住み続けたい・できれば住み続けたい」と答えた人も72.4%に達しています。魅力度では「交通の便が良い」56.1%、「暮らしやすい」49.4%、「自然が多い」27.8%が上位を占め、利便性と自然環境が両立する都市イメージが共有されています。さらに「良質な医療の提供」に満足と回答した市民は43.0%、「子育て支援」に満足した層も25.2%に上り、安心して暮らし子どもを育てられる環境への一定の信頼も示されています。こうした好評価は、幅広い世代が定住意向を持ち地域コミュニティを支える基盤となっています。しかしながら、駅前再開発や公共施設整備などハード面の刷新が進む一方で、市民が「まちの賑わいや買い物の便」に満足している割合は38.0%、「行事やイベントなど活気がある」と感じている割合は7.1%、日頃から松戸の良さを発信している人は14.3%にとどまり、生活圏レベルの賑わい不足と情報発信力の弱さが浮き彫りとなりました。自由記述では「松戸駅周辺の人の往来が圧倒的に少なく感じる」「活気で負けている感が否めない」といった声もあり、中心地の魅力不足が一層浮き彫りとなっています。人口50万都市として、このギャップを放置すればコミュニティの希薄化と商業基盤の脆弱化が進むことは明白です。私たちは、市民が感じている生活利便性と自然環境の良さという強みを土台に、地域の課題解決を図るべく“食”をテーマにした事業を開催します。「地域の賑わい創出」「商業活性化」「若年層の地域参加促進」「松戸の地域ブランド構築」という複数の地域課題に対し、JC運動の力で課題を解決してまいりましょう。

協働を通じて、子どもたちの自己効力感を育む機会を創る

松戸市が令和5年度に実施した「子ども・子育てに関するアンケート調査」では、小学5年生の83.5%が「将来の夢がある」と答え、子どもたちは未来を描く意欲を備えています。一方で「自分のことが好き」と答えた割合は60.6%にとどまり、理想を行動へ結びつける自己効力感が十分に育っていないことが浮き彫りとなりました。〈高い夢志向×低い自己効力感〉というギャップは、挑戦の第一歩を阻む深刻な課題です。そこで本年度は、単なる自己肯定感の向上ではなく「自分ならやれる」と実感できる自己効力感の醸成を最重要テーマに掲げます。成功体験を“細かく区切る仕掛け”を用意し、仲間と励まし合いながら〈できた〉を積み重ねるプログラムを設計します。仲間と協働してミッションをやり遂げる体験は、自分の力への信頼を生み、自らの力で未来を切り開いていく自信になります。第3期松戸市子ども総合計画が掲げる「子どもが夢や希望を持ち、自ら考え行動し、地域とともに成長できるまち」の実現に呼応し、子どもたちが“夢への一歩”を踏み出す機会を提供してまいりましょう。

クリードを深く学び、理念を行動へ昇華する組織を築く

JCI クリードは、私たちの運動の根幹を成す、最も根源的かつ普遍的な価値観を示すものであり、世界中の約 200,000 人の JCI メンバーが国境を越えて共有している共通理念です。そこに込められた「個人の人間的成长」「社会正義の重視」「経済的公正」「国家の法治主義」「人間の価値と志の尊重」といった信念は、我々が日々行う活動の方向性を確認し、迷いや疑問が生じたときに立ち返るべき精神的な拠り所となります。しかしながら、理事会や例会前のセレモニーで JCI クリードを全員が唱和できていない現状があります。これは単なる暗記の問題ではなく、理念と日常の活動との接続が十分にされていないことを意味しているとも言えます。まずは、メンバー全員がクリードを正しく唱和できるようになることを目標とし、クリードの内容や背景を学ぶ機会を通じて、「なぜ JC が存在し、私たちは何を目指すのか」を自らの言葉で語れることを目指してまいります。また、単なる理念の伝達に留まらず、クリード、ミッション、ビジョン、JC 宣言、綱領を多角的な学びを体系的に設計し、会員一人ひとりの運動理解を深化させます。そのうえで、各委員会や事業においても、クリードの精神が自然に根付くよう、実践的な振り返りや内省の機会も設けてまいります。「クリードを知ること」は、単なる暗記でも義務でもありません。それは、青年会議所に属する一人の人間として、自らの存在意義を見つめ直し、行動に確信を持つための“哲学”を得ることにほかなりません。JC に関わるすべての仲間が、志を共有し、成長し合える組織を目指して、私たちはまず、理念に立ち返ることから始めます。

仕組み化された拡大戦略で、会員拡大を文化として定着させる

2020 年から続いた新型コロナウイルスの影響により、松戸青年会議所においても対面での交流や地域活動が制限され、活発な会員拡大が行えない時期が続きました。その結果、2022 年 1 月には 34 名まで減少したものの、ウィズコロナ・アフターコロナの社会環境への移行とともに、2023 年、2024 年には毎年 20 名以上の新入会員を迎えることに成功し、会員数は再び増加基調に転じております。これは、歴代理事長をはじめ、拡大担当者、そして会員拡大に尽力してくださったすべてのメンバーのたゆまぬ努力の賜物であり、組織全体の士気と一体感の現れでもあります。一方で、拡大活動には依然として属人性が色濃く残っており、拡大の得意なメンバーに依存してしまう傾向が課題として顕在化しています。こうした状態では、会員数の維持・発展が一時的なものに留まり、持続可能な組織運営に対する不安が拭えません。公益社団法人日本青年会議所の報告によれば、全国の青年会議所メンバー数は 2000 年には約 50,000 人を超えていましたが、少子化や地域組織の縮小の影響もあり、2024 年時点で約 26,000 人まで減少しています。これは 20 年間で約半数まで減った計算となり、各地青年会議所においても同様に「拡大の停滞」が課題となっていることがわかります。こうした状況を踏まえ、今後も持続的に発展し続ける組織であるために、単なる人的関係に依存した拡大ではなく、再現性・継続性のある「仕組み」としての拡大戦略が必要不可欠です。本年度は、入会候補者の発掘からフォローアップまでを一貫して行え

る「仕組み」を構築し、将来的には「拡大が文化として根付く松戸青年会議所」の実現を目指してまいります。拡大とは組織の維持手段であると同時に、運動を未来に繋ぐ最大の投資であることを再認識し、その歩みを進めていきましょう。

的確な議案管理と環境整備で、組織運営の基盤を盤石にする

青年会議所において、総務系の委員会は組織運営の根幹を支える欠かせない存在です。最高意思決定機関である総会をはじめ、理事会、監事監査、中間監査、年間監査など年間を通じて数十回に及ぶ諸会議の円滑な運営を担うため、他委員会以上に厳格かつ緻密な運営管理が求められます。適正な議案運用と記録管理は組織の透明性・信頼性を維持するために不可欠です。「当たり前のことを当たり前に行う」ことは非常に重要でありながら、決して容易ではありません。しかし総務が確実に機能することで、全メンバーは日々の活動に専念でき、JC運動全体の質とスピードが向上します。まずは年間スケジュールを早期に作成し、関係者への周知徹底を図ることで、会議日程の確保と円滑な調整に努めます。また、すべての会議は、議案システムで管理運用することで、会議資料や議事録を電子化し、記録の一元管理と検索性向上を実現します。これにより、過去議案の活用や透明性の高い運営が期待されます。さらに、事務局の環境整備にも注力し、常に清潔かつ機能的な空間を保つことを心がけます。備品の在庫管理においても、欠品ゼロを目指し、定期的なチェックと補充を徹底することで、事務局運営の安定化を図ります。これらの取り組みを通じて、組織全体の基盤を支え、より強固で持続可能な組織運営に貢献してまいりましょう。

多様な国際交流を通じ、松戸から世界への架け橋を築く

松戸青年会議所には、国際交流の多様な機会が豊富に存在しています。1979年に締結したJCI台湾・中華民国タートン国際青年商会との姉妹JC提携を通じて、毎年相互に訪問し、交流と友情を深めてまいりました。また、アジア太平洋会議(ASPAC)やJCI世界会議には、アジア太平洋地域から約4,500名(JCI ASPAC公式報告書2023年)、世界各国からは毎年約10,000名を超えるJCメンバーが参加しており(JCI世界会議2023参加報告)、松戸青年会議所からも毎年多くのメンバーが参加しています。これらの国際大会は、多様な文化や価値観に触れる絶好の機会であり、グローバルな視野を広げる貴重な場となっています。これまで国際関連事業は各委員会が分担して担ってきましたが、2026年度は国際を専門に担当する室を新設し、国際に特化した専門的な活動を展開します。当室は、全メンバーに国際の機会を提供し、多文化理解や国際感覚の育成を目的とします。英語力の有無にかかわらず、多くのメンバーが国際の扉を開き、次代を担うリーダーとして成長することを目指します。国際交流は決して遠い世界の話ではなく、地域活性化や個人の成長に直結する身近な取り組みです。活動を通じて、松戸から世界へと繋がる可能性を実感できる一年にしてまいりましょう。

SNS を資産に変え、共感で繋ぐ広報を展開する

スマートフォンが生活の必需品となり、SNS が世代を超えて広く活用される現代において、SNS は欠かせない存在です。我々の活動をリアルタイムに発信することは親近感を高め、地域社会や行政、企業、そして未来の仲間との繋がりを育むきっかけになります。2025 年度は Instagram を中心に多くのフォロワーを獲得することができました。これもひとえに広報担当者の努力の賜物です。この経験を担当者のみに留めず組織の資産へ昇華させることができ、次年度以降の SNS 運用を継続するうえで大切になります。本年度は、投稿企画の着眼点、撮影・編集の基本、ブランドトーン、簡易的な効果確認の方法などを整理した運用マニュアルの構築を目指し、担当が替わっても同水準の情報発信を継続できる「仕組み」を整えます。標準化によって再現性を高めつつも各メンバーの創造性や地域への愛着が活きる余白を残すことで、発信の勢いと更新リズムを持続化させ、年度をまたいで蓄積されるデジタル資産を次世代の広報戦略のエンジンへと育てます。リアルタイムの物語を重ね、松戸青年会議所の挑戦と魅力をさらに大きな共感の輪へつなげていきましょう。

財務とコンプライアンスの両輪で、健全な運営を支える

青年会議所の活動は、メンバーの皆様からの会費、ならびにご賛同いただいている賛助企業の皆様からのご寄付によって支えられています。これら貴重な資金は、組織運営の基盤であり、その適切な管理と有効な活用が求められます。また、近年のコンプライアンス意識の高まりを受け、対内外に向けた広報物や情報発信についても、法令順守の観点から事前の精査が不可欠となっています。こうした背景を踏まえ、財務およびコンプライアンスの両面から青年会議所の健全な運営を支えるべく、財務およびコンプライアンスをチェックする室を設置いたします。財政面では、各委員会・室との緊密な連携のもと、会費の納付状況を適正に把握・管理し、メンバー全員の 100% 納付を目指してまいります。また、限られた財源を最大限に活用すべく、全体最適の視点から予算の適正配分を行い、各委員会・室の事業が円滑に遂行される環境づくりを推進します。さらに、財政規則審査会議を月次で開催し、上程されるすべての議案に対し、財務的観点および法的適正性の観点から審査を行います。これにより、青年会議所の活動が社会的責任を果たしつつ、持続可能な運営体制を確立していくことを目指します。

行政や関係諸団体の皆様へ感謝を伝える

行政各位ならびに地域・諸団体、そして各地青年会議所の皆様には、平素より松戸青年会議所の活動に並々ならぬご厚情とご支援を賜り、心より感謝御礼申し上げます。皆様の温かな後押しがあってこそ、私たちは志を掲げ前進することができております。この感謝を直接お伝えすべく、新年祝賀会を催し、先達が築いた確かな信頼と絆を次代へ継承するとともに、更なる共創への新たな一步を皆様と共に踏み出してまいります。

むすびに

「前人木を植え、後人涼を得る」 この言葉は、私が 2025 年、本会出向先のグループ会議で、歴代会頭の中島土先輩が特別講演の中で話されていた言葉です。先輩方が木を植えてくださったおかげで、我々現役メンバーは涼を得ることができます。だからこそ、我々現役メンバーは、これから JC に入会する未来のメンバーのために、木を植えなければなりません。JC は単年度制です。だから多くの青年に運動を作る機会を提供できる。だからこの組織には価値がある。得意な人がやるから価値があるのではない。それをむしろ苦手と思う人がやるからこそ、凄まじい原体験を通して、とてつもない成長を得られる。だから、単年度の価値があります。現役メンバーの皆様は、入会されてからこれまでの間、素晴らしい機会を通して、多くの成長の果実を手に入れられてきたのではないでしょうか。ぜひ、その素敵な果実を、成長の機会を、あなたが次のメンバーに提供してあげてください。経験を積んだあなただからこそ、あなたはまた次の青年に提供することができます。不安でいっぱいのメンバーがいたら、「あなたならできる」と声をかけてあげてください。松戸青年会議所メンバー一人ひとりが『覚悟』をもって、一丸となって取り組めば、どんな困難も乗り越えられます。

さあ、迷わず『覚悟』をもって、新たな一步を踏み出しましょう。

新たな一步が、人生を変え、松戸の未来を変えていくのです。